

磐田市立郷土館報告 第Ⅲ輯

磐田67号墳調査報告書

1977

磐田市教育委員会

磐田市立郷土館報告 第Ⅲ輯

磐田67号墳調査報告書

1977

磐田市教育委員会

はじめに

このたび、ここに、磐田第67号墳調査報告書を上梓するはこびとなりました。本書に報告された、磐田第67号墳は、市内寺谷地内に存在していたが、すでに西側は砂利採取がされ、工事の跡が崖状になっていた。

砂利採取法が施行され、危険な斜面については法面調整が義務づけられたが、この法面調整工事によって安全勾配を確保することが決定した。

この工事によって、前回の採土工事では業者の協力によって保存することが約束されていた、磐田第67号墳も墳丘裾部まで採土されていたが、今回の工事では削取せざるを得ない結果となった。本工事は、地域住民の安全確保のため必要な防災処置であると判断された。

磐田第67号墳については工事施工以前に発掘調査を実施し記録を保存することに努めた。調査は、遠江考古学研究会の協力を得て実施された。この調査記録を整理して報告書を刊行するはこびとなった。

本書が、学術・教育関係資料として、また文化財保護行政上の資料として活用されんことを切望するものである。

最後に、この調査に多大の労を煩したにもかかわらず、終始、真剣な学究的態度で調査、報告書執筆にとりくまれた調査員各位、ならびに調査に協力を惜まなかつた工事関係者の御厚意に対して衷心より感謝の意を表するものである。

昭和52年3月

磐田市教育委員会

教育長 鈴木眞三

例　　言

- 1、本書は、1976年5月に行なわれた磐田67号墳及び同墳下より新発見の縄文時代遺跡（中半場遺跡）の発掘調査のうち古墳に関する報告である。
- 2、調査は、磐田市教育委員会の平野和男が担当者となり、同教育委員会の青木克己、遠江考古学研究会の松浦哲二、木野美鈴がこれを補佐した。また磐田市誌編纂室の徳橋伸一氏の協力を得た。
- 3、出土遺物の整理（磐田67号墳）は松浦が行なった。また出土遺物は全て磐田市教育委員会が保管している。
- 4、磐田67号墳に関する実測図のトレース、執筆は松浦があたり、その責を負うものである。
- 5、磐田67号墳の遺構、遺物の写真撮影は松浦が行なった。
- 6、出土遺物は通し番号を用いた。
- 7、遺跡の番号は磐田市遺跡台帳（磐田の古代文化参照）によるものである。
- 8、本書は平野が原稿を検討し編集したものである。

図版目次

図版一 1 磐田67号墳

1、遠景（西側台地下より）

2、近景（北側より）

図版一 2

1、磐田67号墳の調査状況（東側より）

2、内部の構造（北側より）

図版一 3

1、遺物出土状態（第1埋葬遺構）

2、遺物出土状態（第2埋葬遺構）

3、出土遺物 1、（玉類）

図版一 4 出土遺物 2、（小形仿製鏡、空玉、刀子、鉾、鋳造鉄
斧）

図版一 5 出土遺物 3、（泡、小刀、鐵鏡、直刀片、帶金具、須恵
器）

目 次

1、位置と地形	1
2、調査の経過	2
3、墳丘	3
4、周溝	7
5、内部構造	8
6、出土遺物	10
7、まとめ	24

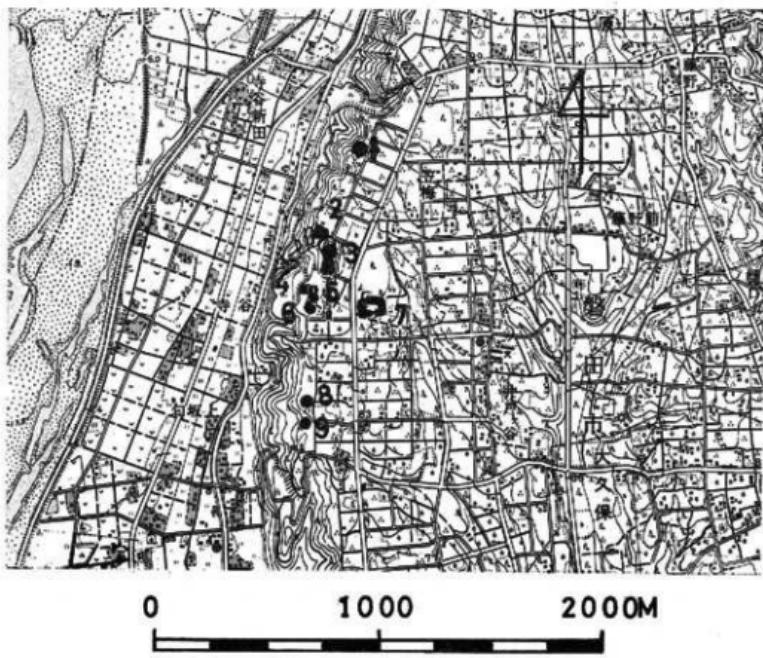
挿図目次

図-1 遺跡位置図	1
図-2 磐田67号墳墳丘実測図	2
図-3 磐田67号墳構造	4
図-4 墳丘断面図（東、北、南セクション）	5
図-5 墳頂部断面図	6
図-6 内部構造実測図	折込
図-7 出土遺物実測図 (1)	11
図-8 出土遺物実測図 (2)	21

1. 位置と地形

磐田原台地は、東側の太田川、西側の天竜川にはさまれた第三紀層を基盤とする洪積台地である。台地東縁部は、多くの侵蝕谷の発達によって大小の丘陵に分かれている。台地西縁部は、天竜川の侵蝕により直線的な崖状をなしている。また台地上は、大きく侵蝕を受け変化に富んだ地形を呈している。

本古墳は、台地西縁に位置し、東海道本線、磐田駅より約8km北方の磐田市寺谷原地内に存在する。本墳は、松林山古墳を主座とする御厨・新貝支群と共に磐田原古墳群の中心をなす銚子塚古墳（前方後円墳）を主座とする寺谷・匂坂支群に含まれる。



1. 米塚古墳 (50号) 2. 小筑子塚古墳 3. 銚子塚古墳 4. 67号墳
5. 69号墳 6. 71号墳 7. 長者塚 8. 91号墳 9. 大塚古墳 (100号)

寺谷・勾坂支群は、約70基から成り立っており、本墳は銚子塚古墳の南約100mにある。また銚子塚古墳の北側に近接して小銚子塚古墳（前方後方墳）があり、更に北方約500mには米塚古墳（円墳）がある。本墳のすぐ南側に現状では円墳にみえるが前方後円墳と推定される磐田69号墳、更に南に近接して磐田71号墳（円墳）がある。また本墳から台地内側の約300mには、奈良時代の官衙址と考られる長者屋敷が存在する。縄文時代の遺跡としては、米塚古墳と銚子塚古墳のほぼ中間にJ4遺跡が、銚子塚古墳のすぐ東側にはJ5遺跡が存在する。

2. 調査の経過

調査は、1976年5月10日に開始された。調査対象となった磐田67号墳は、西～北側

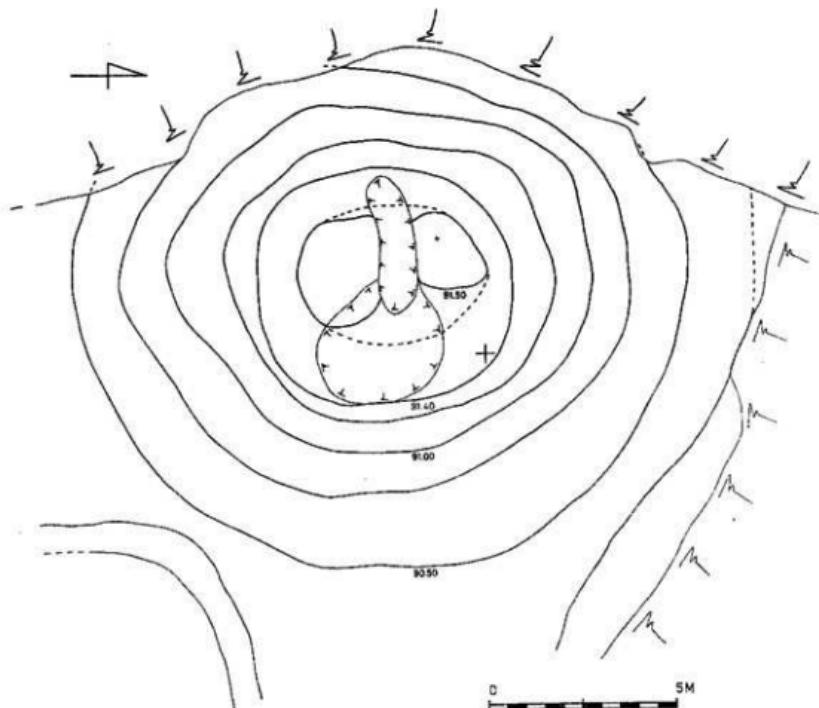


図-2 磐田67号墳 墳丘実測図

にかけての%程度が土取りによって消滅し、断崖状を呈していた。(図版1の1参照)

墳丘上の立木は既になく、小木、雑草等を取り払い、清掃後、写真撮影、地形測量を行なう。また西側には危険を見越して、その端より1~2m内側に防護用の杭を打ち鉄条網を張った。

発掘調査は、墳丘裾に東、南、北の3本のトレンチと墳頂部に方形の調査区を設定して行なった。各トレンチの墳丘裾からは地山層を切り込んだ周溝が検出された。また東、南トレンチでは旧地表の黒色土層中から縄文土器、フレーク、石鎌等が発見された。南トレンチでは地山層を切り込んだ落ち込みが認められ、縄文時代の住居址と推定された。

墳頂部は、中央付近から凸形の掘り込みが検出された。掘り込みの堆積土は非常に柔かく、堆積土の中より直刀の破片、刀子の破片等が発見された。このことから既に主体部が破壊されていることが推察された。なお聞くところによれば、背この付近では芋の貯蔵は平地より一段高いところに穴を掘って行なったと云われ、これには古墳のような高所が最適であり、この掘り込みは貯蔵用の芋穴の重複したものではないかということであった。

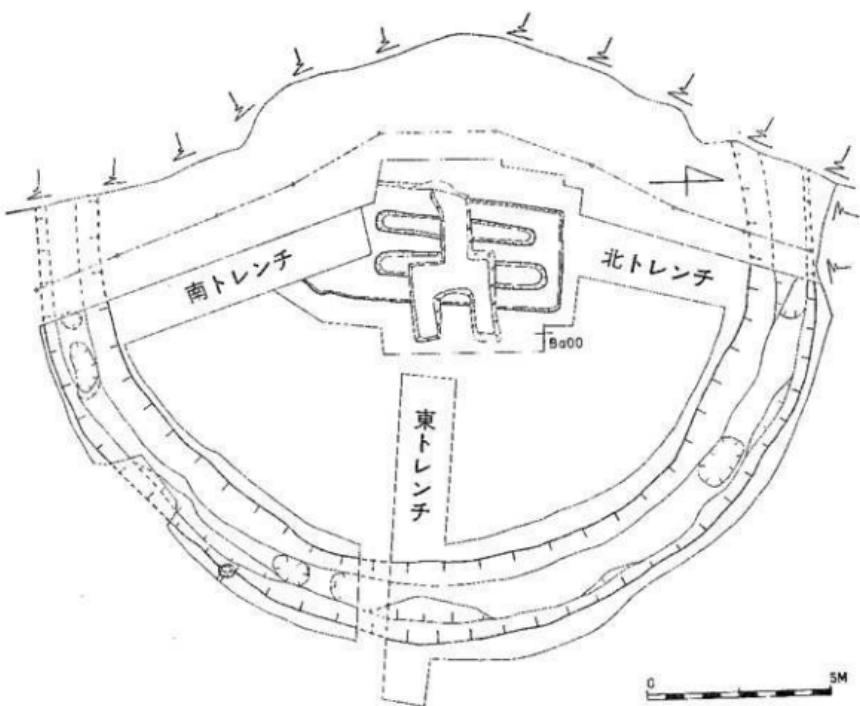
古墳の主体部(棺体を埋納する掘り方)は、この掘り込みを取り囲むように南北に長い方形のプランで検出された。主体部内からは2体の埋葬遺構が認められたが、予想したように双方の埋葬遺構の中央付近は芋穴によって破壊されていた。双方の埋葬遺構からは鉄製品、玉類、小形仿製鏡等が発見された。鉄製品の中に鋳造鉄斧があり注目される。

主体部の写真撮影、実測後、墳丘上の表土の除去を行なう。この作業中に須恵器の破片が2ヶ所でまとまって発見されたが、直接本墳被葬者とは関係するものではないようだ。

古墳の調査終了後、南トレンチで発見された縄文時代の住居址を調査するため墳丘を排除した。

3. 墳丘

本古墳は、既に述べた如く西~北側部分が消滅していた。また北側の墳丘裾から平



図一三 筑田 67 号 墓構造図

墳部に移る付近もブルドーザーによって多少削られた状態であった。墳頂部には東西方向に長い長円形を呈する凹みと、この凹みの東端が重なり合った不整円形の凹みがあり、既に盗掘を受けているものと思われた。（実際には前述したように芋穴と考えられる。）

墳丘は、部分的に欠失しているが円墳であり、発掘前の墳丘尖削図によれば直径約16.5m、高さ約1.2mの小規模なものである。また墳丘裾部の外縁では周溝の存在を認めることはできなかった。

発掘調査は、墳丘の構造、周溝の存在の有無を調べるものとして、西側の消滅したところから1.5~2m内側に打ち込んだ防護用の杭に添って南、北、更にその中間の東のトレンチによって進められた。墳頂部には主体部の検出を目的としておむね2つの

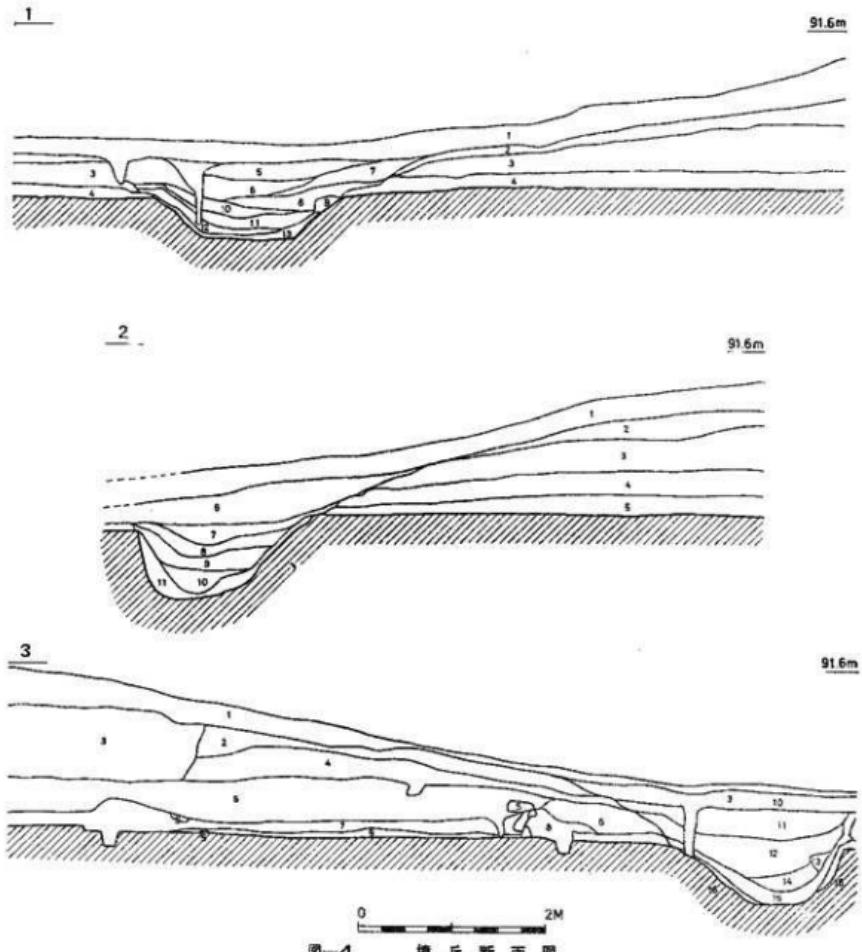


図-4 塗丘断面図

1—東セクション 1. 表土層 2. 臨褐色土層 3. 黒色土層 4. 黒色土層（粘質を帯び硬い）5. 黒色土層（やや明るい）6. 黒色土層 7. 黒色土層（やや明るい）8. 黒色土層 9. 黒色土層（地山土を多く含む）10. 黑色土層（地山土を少量含む）11. 黒色土層 12. 黒色土層（11に比して地山土を少なめ含む）13. 黒褐色土層

2—北セクション 1. 表土層 2. 黒褐色土層 3. 黑色土層 4. 黑色土層（粘質を帯び硬い）5. 黑色土層（粘質を帯び硬く黄味が強い）6. 黑色土層（やや明るい）7. 黑色土層 8. 黑褐色土層 9. 黑褐色土層 10. 黑色土層（地山土を少なめ含む）11. 黑褐色土層（粘質を帯びる）

3—南セクション 1. 表土層 2. 暗褐色土層（地山土を多く含む）3. 暗褐色土層 4. 黑褐色土層 5. 黑色土層 6. 黑色土層（5に比してやや明るい）7. 黑色土層（赤味を帯びる）8. 黑色土層（やや明るい）9. 黑色土層 10. 暗褐色土層 11. 黑色土層 12. 黑色土層（地山土を少なめ含む）13. 黑色土層（硬くしまっている）14. 黑色土層 15. 黑色土層（地山土を含む）16. 深色土層

お団みを取り囲む方形の調査区を設定し、主体部の検出作業が進められた。この結果、東・南・北の各トレンチの墳丘裾部には、現地表下約60cmに認められる黄褐色の地山層を掘削した掘り込みが認められた。このことから墳丘全体に周溝がめぐらされているものと推定された。

各トレンチによって墳丘の構造を観察すると、墳丘の封土は地山層の上に厚さ55～65cmに堆積した旧地表である黒色土層の上に盛り上げられている。しかし墳丘裾部ではこの黒色土層は薄くなってしまっており墳丘構築に際してこの黒色土層を削って仕上げていることが観察できた。

墳丘は、東、北の両トレンチでは旧地表の上に暗褐色土、黒褐色土、黒色土を盛り上げているが、南トレンチでは、下層に黒褐色土を積み、上層には黄褐色土および褐色土に黒色土の混入したものを使っている。つまり、この南トレンチの部分だけ周溝を掘削する際に排出する地山土（黄褐色土）に黒色土が混じったものを使っていることが指摘できる。なお地山土に黒色土を混入させたものが意識されたものか、あるいは掘削から排出の段階で自然に混じった状態になったのかははっきりしない。

墳丘中心部の構築盛土の状態は図-5に示した如く墳丘中心にあたる旧地表の黒色土層を10～15cm程度掘り下げた後、褐色土層と暗褐色土、黒褐色土、黒色土層が互層となって堆積しており、縞状を呈している。この状態は中心部のみ認められる。この後は墳丘裾にみられるような暗褐色土、黒褐色土等を盛り上げている。主体部はこの

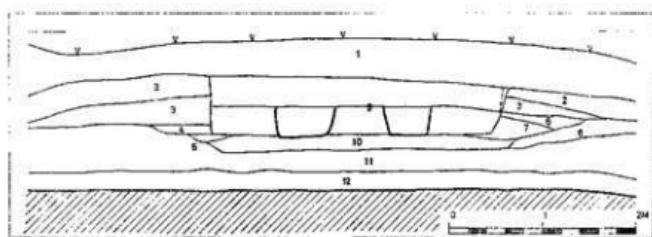


図-5 墳頂部断面図

1. 表土層 2. 暗褐色土層 3. 褐色土層 4. 黑褐色土層 5. 褐色土層（含粘質）
6. 暗褐色土層 7. 褐色土層 8. 黑褐色土層 9. 暗褐色土層 10. 暗褐色土層（黑色土ブロック状に混る）
11. 黑色土層 12. 黒色土層（含粘質）

盛土の上部から切り込んでいることは図一五によって明らかである。

また墳頂部を通過するトレンチが設定できなかったため、各トレンチに認められる周溝の内側の立ち上りを結ぶ円を描いてみると、ほぼ正形に近い形を呈している。

この平面形の中心は、後述する主体部のほぼ中心にあたっており、周溝を含めた墳丘の構築が当初から計画的に正円の墳形を整えることを意図したものと考えられる。

周溝の立ち上りをもって墳丘規模とするならば基底径 17.6m の規模を有するものであることが明らかとなった。高さは地山面より東トレンチ 1.8m、南、北トレンチ 1.85m を測るが、後世に自然あるいは人為的な変改を受けているため多少の土景を加算する必要があろう。

4. 周 溝

周溝は、東、南、北の各トレンチでその存在が明らかになったため全掘した。各トレンチにおける周溝の規模は次の如くである。

東トレンチ幅 2.1m、深さ（地山面を基準として） 0.5m で横断面は逆梯形を呈する。南トレンチ幅 1.8m、深さ 0.6m で外側の立ち上りはほぼ垂直的で鋭い。

北トレンチ幅 1.85m、深さ 0.75m で外側の立ち上りは南トレンチと同様である。この数値からもわかるように南と北トレンチにおける周溝の規模、その形状は似かよった点があり、東トレンチにみられる周溝の形状は他の部分と異なっている。

周溝の深さは、最も浅い東トレンチを基準とすると南トレンチ—10cm、北トレンチ—25cm であるが、レベルを一定とした場合では南トレンチ—20cm、北トレンチ—40cm を測り、周溝の底は東から南、北方向に下っている。

古墳における周溝の持つ意味は、墓域を画することはもちろん、排水施設としての役割も重要な点であり、周溝の底が一定レベルでないことは、排水をスムーズに行なうことにもつながる。従って周溝内の排水は、西側あるいは北側に集められて行なわれたものであろう。

なお周溝内からは、縄文時代の土器片、フレークが発見されたが本古墳に関連する遺物は全く発見されなかった。

5. 内 部 構 造(図一6、図版一3)

本古墳の主体部は、墳丘築造後に盛土を掘削して築かれた掘り方で内には2体の埋葬構があつた。

主体部は、ほぼ墳丘の中心部にあり、N-8°-E方向に主軸を有する長方形の掘り込みである。規模は、長辺7.0m、短辺2.8mを測り、深さは現地表下より1mである。

主体部は、北側の角がほぼ直角であるのに対して南側はやや丸味を持った角をなしている。2つの埋葬構は、長辺に並行して置かれており東側を第1埋葬構、西側を第2埋葬構と命名した。双方の埋葬構は、主体部の中心よりやや北側に位置し、南端をそろえて埋葬されていた。

なお、主体部内堆積土と埋葬構に落ち込んだ土質は全く同質化しており、その判別は容易ではなかった。しかし調査の進行に従って主体部内に並行して2つの埋葬した痕跡を発見することができた。このため実際の構造面は、発見面よりある程度上部であったと推定される。

1. 第1埋葬構

埋葬構の主軸方位は、N-5°-Eであり、ほぼ主体部の主軸と同軸値を示している。平面形はおおむね長方形を呈し、長さ4.65mを測り、幅はC-C'で0.71m、D-D'で0.63mである。深さは、発見面を基準とすればC-C'で0.24m、D-D'で0.31mを測り、横断面は逆梯形を呈している。なお埋葬構の中央部分は、最大2.3m、最小1.5mの間が切断されていた。

遺物は構構内の北側に多くみられ、地点別に2グループに大別できる。第1グループは、埋葬構の北端寄りのほぼ中央に鉢と鋳造鉄斧が切先を北に向けて置かれていた。このすぐ南には、小形仿製鏡、刀子、空玉、ガラス玉、白玉が一群をなしていた。

刀子は、埋葬構の主軸に対してほぼ直角に置かれ、刀部は北向きで柄は東側に位置していた。

鏡は、刀子の西端部の上位にあり、鉢のある面を下に向けていた。

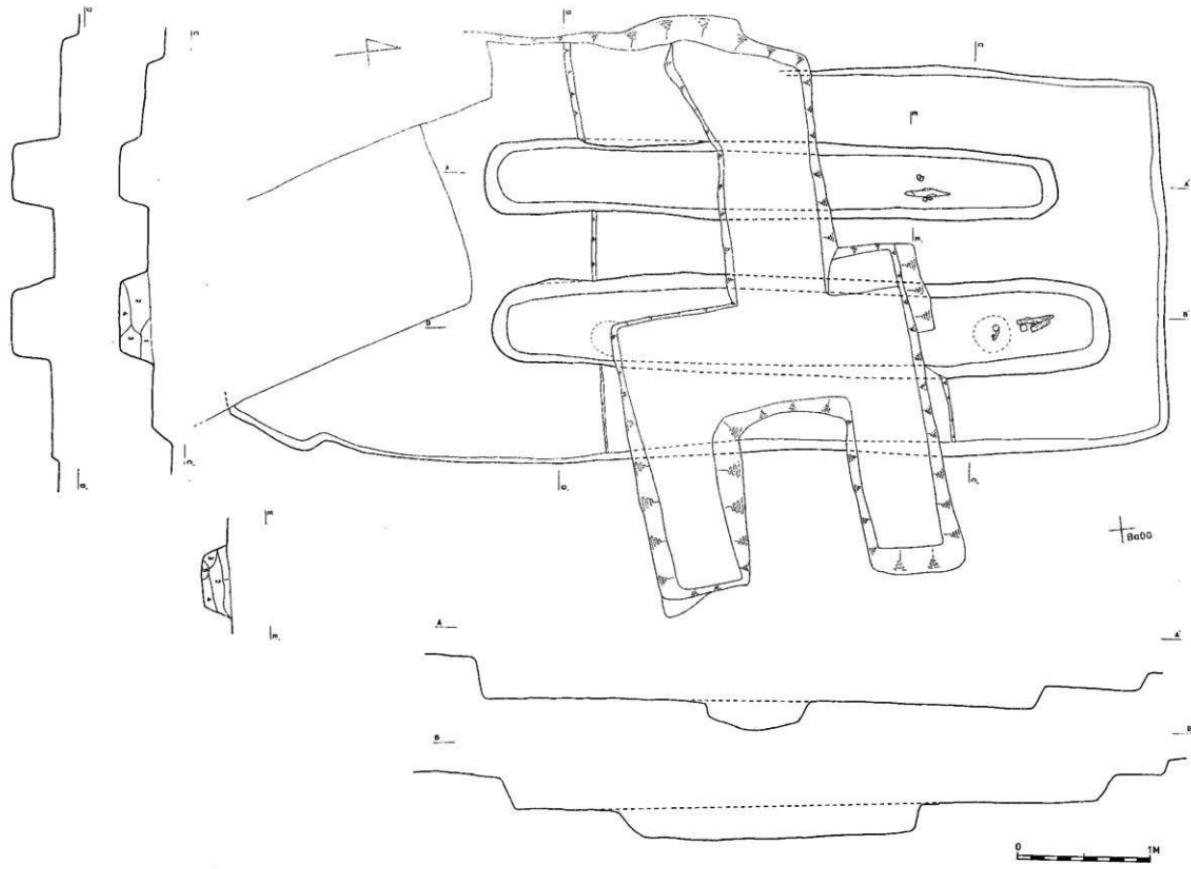


図-6 内部構造

また、空玉は、刀子の南に密着していた。これらは、いずれも棺底より数cm浮いた状態で発見された。

また図一6に示した如く、刀子、小形彷製鏡、空玉を取り囲むようにガラス玉と白玉が散乱していた。これらは数cmのレベルの間から発見され、刀子のレベルよりも下位に当るものが多い。

第2グループは、掘り込みによって切断された南側にあり、ガラス小玉、骨石製白玉、管玉が発見された。これは第1グループに比して、より棺底近くにあった。

ガラス玉の大半は径3mm以下のもので、埋葬遺構に堆積した黒色土、暗褐色土の粒子と同程度の大きさで酷似しており、その区別、検出には非常に苦労した。このため玉類は、散逸を避ける意味から発見次第取り上げ、その範囲をしるすこととした。また、排土の中に見逃したものもあると考えられたため持ち帰り、水洗いをしたところ35個が含まれていた。

また第2グループでは玉類のあり方からして破壊された部分にも当然玉類の広がりがあったものと考えられる。

2. 第2埋葬遺構

埋葬遺構の主軸方位は、N-8°-Eで主体部の主軸と全く同軸値である。平面はおおむね長方形で長さ4.3mを測り、幅は、C-C'で0.52m、D-D'で0.56m、第1埋葬遺構よりやや小形である。深さは、発見面を基準とすればC-C'で0.19m、D-D'で0.31mを測り、横断面は逆梯形を呈しているが、D-D'では方形である。なお埋葬遺構の中央部は0.8mの間が切断されていた。

遺物は、切断部分より北側のほぼ中心にあり、小刀、鉈、鐵鉢が刃先を南に向けて置かれていた。またこの西側には帶金具が2個置かれていた。第2埋葬遺構からは鐵製品のみで玉類は全く検出できなかった。

これら双方の埋葬遺構に埋納された棺体は、木棺と考えられるが、その痕跡を全くとどめていないため、埋葬遺構の形状を木棺の形状と同様なものと推測することができよう。

双方の埋葬遺構の前後関係については、

①主軸がほぼ同数値であること。

- ⑤埋葬遺構の一端（南端）をそろえていること。
- ⑥埋葬遺構の底がほぼ同じレベルであること。
- ⑦主体部の幅に対して同じような間隔を持って埋葬されていること。
- ⑧更に双方の埋葬遺構を横断する断面には2次堆積が認められないことから同時に埋葬されたものと考えたい。

6. 出 土 遺 物

本墳より出土した遺物は次の通りである。

第1表

遺 物 名	数		量	遺 物	No.
	第1遺構	第2遺構			
管 玉	4		1~4		
ガラス玉	333		5~337		
白 玉	81		338~418		
小形仿製鏡	1		419		
空 玉	1		420		
鋳造鉄斧	3		421 422 423		
鉢	1		424		
鉈		1	425		
小 刀		1	426		
刀 子	2		427 428		
鉄 銛		1	429		
帶 金 具		2	430 431		
直刀（破片）	4		432 433 434 435		
須恵器（墳丘上の表土より）	破 片（復元 2）		436 437		

※須恵器は、その出土状態から直接本墳被葬者とは関係しないものである。

1. 玉 類

玉類は、すべて第一埋葬遺構より出土した。玉類の出土範囲は第6図に点線で示した如く埋葬遺構の北、南側の2ヶ所であり、これらはいずれも埋葬遺構の東側寄りに位置している。

北側第1グループでは、ガラス小玉326、白玉78の計404個を数えるが管玉は一個も出土していない。

南側第2グループでは管玉4、ガラス小玉7、白玉3の計14個を数える。第1、第2グループの玉類は、管玉4、ガラス小玉333、白玉81の合計418個であった。

第1、2グループの玉類の出土範囲の中心間隔は約2.8mである。このことから玉類は埋葬遺体の両端に副葬されたものと考えられる。また第1グループの玉類は、小形仿製鏡、空玉、刀子を中心として円形に拡がっており、刀子に布目痕が付着していたことからこれらと共に布に包まれて副葬された可能性が強い。

管 玉 (図-7、図版-4-2)

1、2は、うす緑色を呈する。1は一部欠損品、2は完形品である。石質は、凝灰岩製と思われ砂質が強く風化が著しい。

3、4は、黄緑色を呈する。共に破片であり両者は同一品ではない。石質は、良質の碧玉製で3の外径がやや大きい。

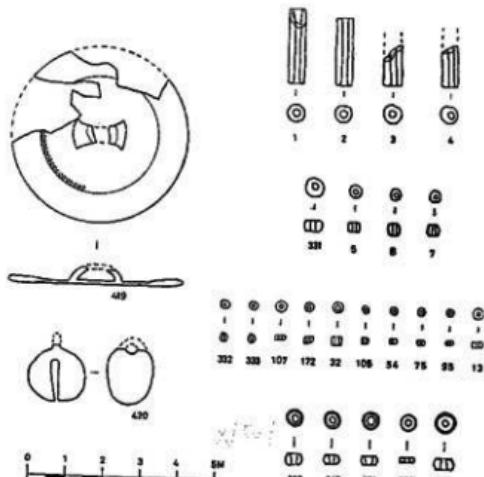


図-7 出土遺物 1.

第2表 管玉計測表 (単位mm)

	長さ	外径	内径
1	20.0	4.50	2.00
2	18.0	4.50	2.00
3	11.0	5.00	2.00
4	11.0	4.50	2.00

ガラス製小玉(図一7、第2、3、4表、図版4-2)

本墳出土のガラス玉はいわゆる小玉に属するもので、外径の最小は1.5mm、最大は5.05mmの範囲内にある。

これらのガラス小玉は、その大きさ、形状によってほぼ3類に分けることが可能である。

①、(遺物番号 5、6、7、331)

外径3.00~5.05mm、厚さ2.50~3.00mm、内径0.80~1.20mmを測る。これらはガラス小玉の中では最も大きい形状を呈しており、特に331は本墳出土のガラス玉の中ではとび抜けた大きさである。

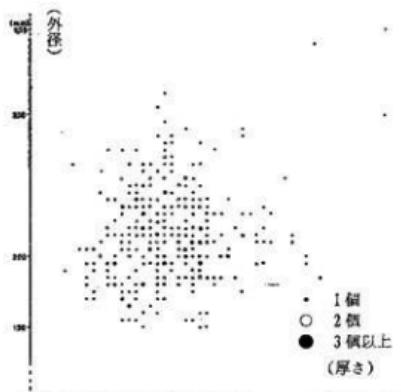
ガラス小玉は、穴のある面が平坦で白玉状を呈するものであるが外径面との角は整形されて丸味を有している。色調は、5、6、331がコバルトブルー、7が紺色を呈する。

②、(遺物番号 332、333)

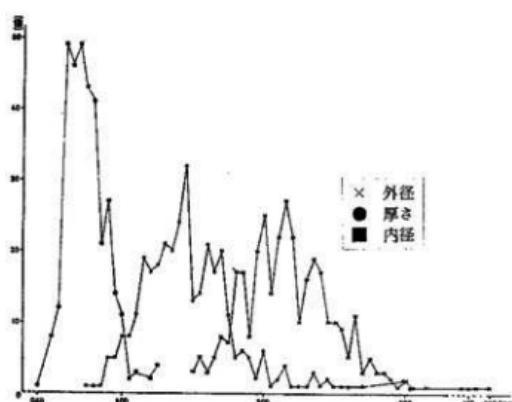
外径 2.10mm、厚さ 2.35mm、内径0.40~0.60mmを測り、厚さが外径を上回った球形状を呈するものである。色調は濃紺色を呈する。

③、(遺物番号 8~330 334~338)

外径1.50~3.15mmを測り幅の大小は大きく、その中心は2.00~2.15mmにある。



第3表 ガラス製小玉計測値分布図表



第4表 ガラス製小玉計測値頻度図表

厚さ0.90～2.45mmを測り、外径同様幅の大小が大きい。その中心は1.45mmにあり、これを頂点としてピラミッド状の計測値を呈する。内径0.50～1.25mmを測り、その中心は0.60～0.80mmにあり、約70%がこの中にある。色調は紫紺色が多く、その他紺、紫等がある。また色の濃淡の差もかなり認められる。29、105は不透明な黒色を呈し、ガラス製ではないかも知れない。

この類のガラス小玉は細いガラス管を切断する管切法による製法で④類と同じく穴のある面が平坦で臼玉状を呈するものであるが、外径面との角は手を加えていないものが多く認められる。また厚さも不ぞろいで、その値が外径を上回るものや、斜めに切断したものがあり、①類に比して、きわめて粗雑な作りであることが指摘できる。

ガラス玉の分類基準は大きさによる分類で、その境は明確ではなく、2種以上出土した場合に大きさを基準として用いられることが多い。

本墳出土のガラス玉はほぼ5.00mm以下で一般的には小玉として扱われているものである。このため固有名詞を与えず①～④類としたが、①、③類と②類は明らかにその形態が異なるものであり、また①、④類もその形態差を認めることが可能。従って①、④類は、ガラス製小玉とするよりも、臼玉とするべきかも知れない。（特に④類はその傾向を指摘できよう。）

第5表 ガラス製小玉計測表（単位mm）

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
5	3.50	2.50	1.00	21	2.00	1.40	0.65
6	3.00	3.00	1.20	22	2.30	1.45	0.60
7	3.00	3.00	0.80	23	2.25	1.60	0.70
8	2.85	1.50	0.90	24	2.85	1.40	1.00
9	2.80	1.50	0.90	25	2.60	1.50	0.90
10	2.55	1.45	0.95	26	2.15	1.20	0.90
11	2.55	1.15	0.80	27	2.10	1.00	0.75
12	2.55	1.60	0.90	28	1.85	1.70	0.65
13	2.95	1.45	0.80	29	2.80	1.45	0.90
14	2.65	1.20	0.85	30	2.30	2.00	0.80
15	1.95	1.10	0.70	31	2.75	1.45	0.90
16	2.15	1.10	0.80	32	2.55	2.30	1.10
17	2.40	1.25	0.90	33	2.45	1.65	0.80
18	2.45	1.45	0.70	34	2.15	1.05	0.90
19	2.10	1.20	1.25	35	2.45	1.25	0.80
20	2.55	1.15	1.00	36	2.65	1.50	1.05

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
37	2.40	1.25	0.60	83	2.15	1.45	0.80
38	2.10	1.80	0.70	84	2.20	1.25	0.55
39	2.45	1.00	0.70	85	2.15	1.15	0.80
40	2.20	1.30	0.60	86	2.60	1.00	0.80
41	2.20	1.45	0.50	87	2.65	1.65	1.20
42	2.55	1.65	0.80	88	2.90	2.00	1.10
43	2.30	1.15	0.75	89	2.85	2.00	0.95
44	2.20	1.25	0.75	90	2.20	1.95	0.80
45	1.90	1.40	0.65	91	2.30	1.30	0.50
46	2.35	1.35	0.75	92	2.00	1.20	0.70
47	2.45	1.50	0.95	93	2.25	1.75	0.80
48	2.35	1.45	0.80	94	2.00	1.60	0.50
49	2.40	1.90	0.60	95	2.05	0.90	0.80
50	2.10	1.70	0.65	96	2.00	1.85	0.65
51	2.15	1.50	0.80	97	2.50	1.35	0.85
52	2.50	1.70	0.80	98	2.10	2.15	0.65
53	2.10	1.40	0.80	99	2.25	1.45	1.00
54	1.95	1.05	0.75	100	2.35	1.30	0.60
55	2.70	1.45	1.00	101	2.05	1.55	0.60
56	2.65	1.50	0.80	102	1.95	1.45	0.60
57	1.85	1.05	0.75	103	2.15	1.00	0.80
58	2.00	1.60	0.70	104	1.55	1.25	0.50
59	2.00	1.60	0.55	105	2.15	1.25	0.60
60	2.00	1.00	0.65	106	1.75	1.65	0.50
61	2.15	1.50	0.75	107	2.75	1.25	1.00
62	1.85	1.75	0.80	108	1.80	1.80	0.60
63	2.40	1.70	0.75	109	2.35	1.65	0.65
64	2.05	1.35	0.60	110	3.15	1.45	1.25
65	2.25	1.25	0.50	111	2.30	1.45	0.90
66	2.20	1.45	0.95	112	2.80	1.70	0.95
67	1.70	1.15	0.55	113	2.15	1.60	0.75
68	1.95	1.10	0.75	114	2.20	1.35	0.55
69	1.85	1.10	0.60	115	2.05	1.35	0.65
70	2.25	1.10	0.75	116	1.95	2.15	0.80
71	2.00	1.70	0.65	117	2.00	1.85	0.70
72	1.80	1.05	0.85	118	1.95	1.45	0.70
73	1.75	1.20	0.60	119	2.10	2.25	0.80
74	2.30	1.65	0.60	120	1.60	1.70	0.65
75	1.95	1.45	0.60	121	1.60	1.75	0.70
76	2.35	1.55	0.90	122	2.15	1.85	0.70
77	2.00	1.60	0.80	123	2.15	1.25	0.95
78	1.70	1.25	0.60	124	2.10	1.45	0.70
79	2.60	1.55	0.85	125	2.55	1.35	0.85
80	2.50	1.60	0.90	126	2.70	1.45	0.80
81	2.20	1.30	0.75	127	2.35	1.60	0.70
82	2.35	1.35	0.95	128	2.65	1.35	0.90

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
129	2.75	1.15	1.00	175	1.85	1.80	0.65
130	2.50	1.25	0.80	176	1.95	1.20	0.75
131	2.75	1.80	1.00	177	2.00	1.90	0.80
132	2.50	1.55	0.80	178	1.65	1.35	0.70
133	2.00	1.45	0.80	179	1.70	1.40	0.65
134	2.15	1.55	0.85	180	2.25	1.25	0.80
135	2.60	1.40	0.85	181	1.90	1.65	0.70
136	2.65	1.30	0.90	182	2.40	1.75	0.70
137	2.20	1.05	0.75	183	1.75	1.15	0.60
138	2.10	2.10	0.80	184	2.05	1.65	0.80
139	2.35	1.60	0.90	185	1.80	1.10	0.65
140	2.15	1.40	0.65	186	1.80	1.45	0.70
141	2.50	1.20	1.00	187	1.50	1.30	0.60
142	1.70	1.65	0.75	188	1.80	0.90	0.60
143	2.10	1.65	0.80	189	1.90	0.75	0.60
144	2.15	2.35	0.90	190	2.15	1.65	0.85
145	2.00	2.45	0.75	191	2.15	1.35	0.75
146	1.85	1.70	0.75	192	2.40	1.30	0.90
147	1.50	1.70	0.65	193	2.35	1.15	0.75
148	2.30	2.05	0.60	194	2.30	1.85	0.80
149	1.85	1.95	0.70	195	2.40	1.10	0.75
150	2.05	1.60	0.65	196	2.65	0.80	0.70
151	1.90	1.50	0.75	197	2.20	1.50	0.90
152	2.15	2.10	0.70	198	1.55	1.65	0.60
153	2.10	1.70	0.75	199	1.95	1.35	0.70
154	2.15	1.75	0.75	200	2.35	1.20	0.70
155	2.10	1.75	0.75	201	2.05	1.20	0.90
156	1.85	1.45	0.65	202	2.60	1.30	0.70
157	2.20	1.70	0.75	203	3.05	1.40	1.25
158	1.75	1.40	0.70	204	2.15	2.00	0.80
159	2.10	1.70	0.75	205	1.80	1.15	0.60
160	1.95	1.70	0.70	206	2.45	1.20	1.00
161	2.00	1.40	0.75	207	2.40	1.65	0.75
162	2.00	1.30	0.70	208	1.80	1.65	0.55
163	1.85	1.85	0.70	209	2.40	1.60	0.75
164	2.20	1.65	0.85	210	1.70	1.15	0.55
165	2.40	1.35	0.80	211	2.05	0.85	0.75
166	1.90	1.70	0.60	212	1.95	2.45	0.65
167	2.25	1.40	0.95	213	2.65	1.70	0.75
168	2.40	1.55	0.75	214	2.45	1.00	0.85
169	1.95	0.95	0.75	215	2.50	1.35	0.60
170	1.85	1.55	0.65	216	1.90	0.95	0.75
171	2.00	1.55	0.70	217	1.80	1.40	0.85
172	2.30	2.20	0.90	218	1.80	1.30	0.70
173	1.55	1.15	0.60	219	1.70	0.95	0.75
174	1.60	1.40	0.70	220	2.20	1.20	0.80

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
221	1.75	1.25	0.65	267	2.20	1.05	0.70
222	1.70	0.90	0.60	268	2.00	1.30	0.60
223	1.75	2.00	0.60	269	2.75	1.05	1.00
224	1.65	1.20	0.60	270	2.40	1.05	0.70
225	2.05	1.40	0.65	271	2.30	1.50	0.70
226	2.15	1.30	0.60	272	2.10	1.55	0.60
227	1.50	1.75	0.60	273	2.20	1.70	0.75
228	1.80	1.10	0.65	274	2.55	1.45	0.65
229	1.95	2.60	0.50	275	1.85	1.45	0.60
230	2.10	2.70	0.50	276	2.50	1.30	0.75
231	1.80	1.55	0.60	277	2.15	1.40	0.75
232	2.30	1.25	0.80	278	2.45	1.45	0.85
233	2.20	1.55	0.85	279	2.35	1.70	0.95
234	1.85	1.20	0.70	280	2.35	1.50	0.80
235	2.05	1.60	0.60	281	2.00	1.75	0.85
236	1.55	1.20	0.65	282	2.40	1.40	0.60
237	2.15	1.45	0.70	283	2.35	1.75	0.70
238	2.15	1.75	0.65	284	2.00	1.85	0.70
239	1.85	0.90	0.65	285	2.15	1.55	0.70
240	1.95	0.90	0.70	286	1.95	1.50	0.55
241	2.15	1.30	0.70	287	2.45	1.45	0.85
242	2.10	1.40	0.65	288	2.00	1.90	0.70
243	2.00	1.20	0.80	289	1.80	1.30	0.60
244	1.80	1.25	0.65	290	1.65	1.15	0.60
245	1.55	1.60	0.65	291	2.30	1.80	0.80
246	2.40	1.55	0.70	292	2.10	1.15	0.65
247	2.10	1.15	0.70	293	2.20	1.60	0.85
248	1.95	1.70	0.60	294	2.10	1.35	0.70
249	1.70	1.45	0.60	295	2.50	1.55	0.90
250	1.90	1.25	0.65	296	2.25	1.35	0.55
251	1.75	0.95	0.55	297	2.20	1.30	0.70
252	2.05	1.15	0.70	298	2.35	1.15	0.90
253	2.35	1.25	0.90	299	2.40	1.60	0.75
254	2.15	1.40	0.60	300	2.50	1.60	0.90
255	2.40	1.30	0.90	301	2.30	1.40	0.95
256	1.85	1.40	0.65	302	2.90	1.60	0.95
257	1.85	1.60	0.60	303	2.35	2.15	0.75
258	1.80	1.10	0.55	304	2.70	1.50	0.95
259	2.25	1.35	0.75	305	2.25	1.40	0.65
260	1.95	1.30	0.65	306	2.30	1.30	0.60
261	2.00	1.90	0.65	307	2.45	1.45	0.90
262	1.60	1.30	0.55	308	1.95	1.90	0.65
263	1.80	1.45	0.65	309	2.00	1.65	0.65
264	1.85	1.65	0.65	310	1.85	2.55	0.55
265	2.20	1.70	0.70	311	2.65	2.00	0.95
266	1.65	1.20	0.65	312	2.20	1.75	0.65

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
313	2.35	1.70	1.10	326	2.65	1.45	0.65
314	2.65	1.20	0.85	327	2.10	1.15	0.60
315	2.35	1.15	0.85	328	2.55	1.60	1.05
316	2.30	1.30	0.90	329	2.05	0.95	0.60
317	1.80	1.45	0.65	330	2.60	1.35	0.75
318	2.20	2.15	0.60	331	5.05	3.00	1.00
319	2.20	1.35	0.65	332	2.10	2.35	0.40
320	1.95	1.60	0.65	333	2.10	2.35	0.60
321	2.00	1.10	0.70	334	2.05	1.90	0.70
322	2.35	1.15	0.95	335	2.05	1.35	0.75
323	1.95	1.10	0.60	336	2.30	1.40	0.75
324	2.40	1.40	0.80	337	1.80	1.30	0.70
325	1.90	1.05	0.85				

白玉(図-7、第5、6、7表 図版-4-2)

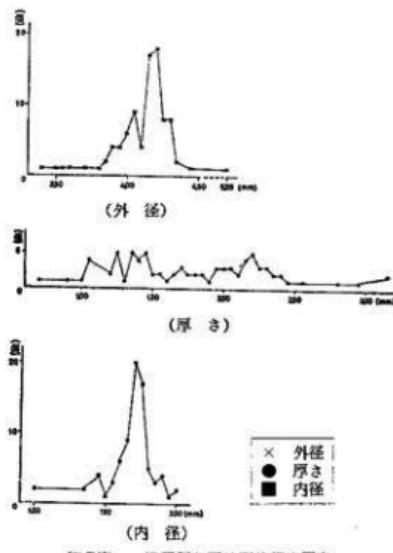
外径3.40~5.05mm、厚さ0.70~3.15mm

内径1.00~2.95mmの範囲にあり、特に厚さの大小の幅が大きいことがいえよう。

また外径4.25mm、厚さ1.40mm、内径1.70mm前後にその数値が集中する傾向を指摘できる。

白玉は、その形状から2種類に分けることができる。

①、厚さの中心が稜をなし、ソロバン玉状を呈するもので比較的厚さの大きいものが多い。この表面には、左上から右下に向かって細い条痕が認められる。穿孔は、その大半のものが片側から行なつておらず、内径面にはラセン状痕が認めら



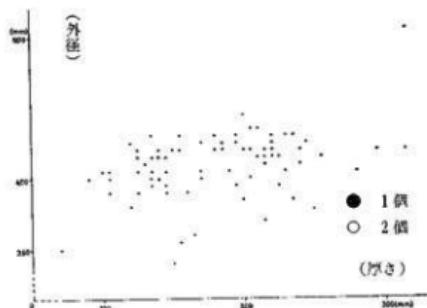
第6表 滑石製白玉計測値頻度図表

れる。内径の大きさは穴の両端でかなり異なるものもありテーパー状を呈する。またこの穿孔は貫通寸前で止め、その中心を小さく穴を開けた状態のもの(203等)も見られる。これは一種にはバリ状態を呈するもので内径の大きさは極端に小さくみえ

る。なお 262、263、264は、両側から穿孔しており、内径面のラセン状痕もほとんど認められず作りも丁寧である。

⑤、①と異なり厚さの中心には稜を持たないもので、厚さは大きくなっているのである。表面の条痕はないが内径のラセン状痕は認められる。

石質は、①、②とも滑石製で軟



第7表 滑石製白玉計測値分布図表

質、硬質があり風化の認められるものもある。石色は、灰色を呈するものが多いが、中には土中の酸化鉄が付着し褐色を呈するものもある。

第8表 白玉計測表 (単位mm)

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
338	4.30	2.35	1.70	363	4.10	2.15	1.75
339	4.20	2.95	1.75	364	4.30	1.35	1.70
340	4.20	2.00	1.95	365	4.15	1.40	1.70
341	4.15	2.20	1.75	366	4.15	1.45	1.75
342	4.25	2.20	1.90	367	4.20	2.40	1.85
343	4.35	2.05	1.75	368	4.25	1.70	1.60
344	4.20	2.15	1.75	369	3.85	2.35	1.75
345	4.15	2.55	1.75	370	4.00	1.70	1.65
346	4.30	2.30	1.80	371	4.45	2.00	1.75
347	4.30	2.20	1.75	372	4.20	1.85	1.75
348	4.05	1.70	1.70	373	4.15	2.15	1.70
349	4.20	1.50	1.90	374	3.85	2.00	2.00
350	4.25	1.85	1.80	375	4.20	1.55	1.75
351	4.35	2.10	1.70	376	4.20	1.75	1.70
352	3.70	2.15	1.70	377	4.25	1.75	1.65
353	4.30	1.95	1.75	378	4.30	1.80	1.60
354	4.30	2.30	1.85	379	4.15	1.35	1.60
355	4.25	2.20	1.70	380	4.20	2.05	1.70
356	4.15	2.10	1.75	381	3.95	1.45	1.70
357	4.25	2.45	1.75	382	4.00	2.05	1.90
358	4.15	2.25	1.70	383	4.00	1.35	1.60
359	3.95	2.25	1.90	384	4.00	1.40	1.70
360	4.15	2.25	1.80	385	4.10	1.05	1.00
361	4.20	2.20	1.75	386	3.90	1.25	1.55
362	4.25	1.95	1.80	387	3.90	1.60	1.65

	外 径	厚 さ	内 径		外 径	厚 さ	内 径
388	3.55	1.65	1.65	404	3.80	1.20	1.70
389	4.15	1.40	1.65	405	4.05	2.80	1.60
390	4.30	1.55	1.50	406	4.10	2.40	1.70
391	4.20	1.25	1.65	407	4.05	1.90	1.70
392	4.05	1.00	1.60	408	4.05	1.45	1.65
393	3.90	1.05	1.55	409	4.20	1.80	1.45
394	3.60	1.65	1.85	410	4.00	1.05	/
395	4.15	1.45	1.70	411	4.15	1.25	/
396	4.15	1.25	1.80	412	4.20	1.40	1.45
397	4.25	1.20	1.00	413	5.05	3.15	1.70
398	3.95	1.35	1.55	414	4.20	3.25	1.35
399	4.10	1.30	1.70	415	4.05	2.30	1.35
400	3.40	1.50	2.00	416	4.00	0.90	1.75
401	3.90	1.45	1.70	417	4.05	1.25	1.45
402	4.05	1.35	1.65	428	3.95	1.95	1.65
403	3.50	0.70	1.45				

2. 小形仿製鏡 419 (図一7、図版一4)

第1埋葬遺構より出土したもので土中に長期間置かれていたため土圧による割れ、歪みがひどく、鏡縁によって欠失している部分もある。

鏡面の直径は、4.7cmを測る小形仿製鏡である。縁は平線で厚さ2mmを測り、外端は丸味を持っている。

面反りは若干あったものと考えられるが割れ歪みがひどく明らかではない。背面の文様は、幅8mmの外区に続いて、外区と内区の境を画する一条の沈線が施されており、更に櫛齒文帯がある。櫛齒文帯は全周にはみられず、部分的に認められるのみである。内区の厚さは0.7mmで非常に薄い。

紐は、上端を欠くが円紐で径1.4cm、高さ4.5mmを測る。

鏡は、一条の沈線と、部分的に認められる櫛齒文帯のみであり、非常に簡略化されたものである。また櫛齒文帯が全周していないこと等、鋳造技術も良好とは言えない。

3. 空玉 420 (図一7、図版一4)

金銅製のもので、紐の部分は欠いているが完形に近い状態である。紐を上部に立てた状態とすれば、しもぶくれの形状を呈し高さ1.5cmで紐の部分を復元すれば1.8cmである。胴径は、長径1.5cm、短径1.0cmで正円ではない。また内部には小石が入れら

れており、鉢の部分を持って振れば、低くにぶい音を発する。

4. 鋳造鉄斧

合計3個出土している。そのうち2個は完形品で、大きさもほぼ同じである。

421(図一8、図版一4)

刃先の一部を欠くがほぼ完形品である。平面形は、中央部がややくびれ、刃先が末広がり状を呈するがおおむね長方形を呈する。全長は11.8cm、幅は袋部で4.1cm、中央部で3.7cm、刃先は現状で3.8cmを測り、復元すれば4.6cmと考えられる。

縦断面は三角形を呈し、横断面は袋部で梯形をなし高さ1.9cmを測る。器厚は3mmである。なお上面には縦方向に3本の突線が認められる。

422(図一8、図版一4)

上線の部分が欠失している。平面形は、421と同じく長方形を呈する。全長は11.9cm、幅は袋部で4cm、中央部で3.6cm、刃先は現状で4.3cm、復元すれば4.6cmと考えられる。横断面は袋部で梯形をなし、高さ1.9cmを測る。上面には421と同様3本の突線が認められる。

423(図一4、図版一8)

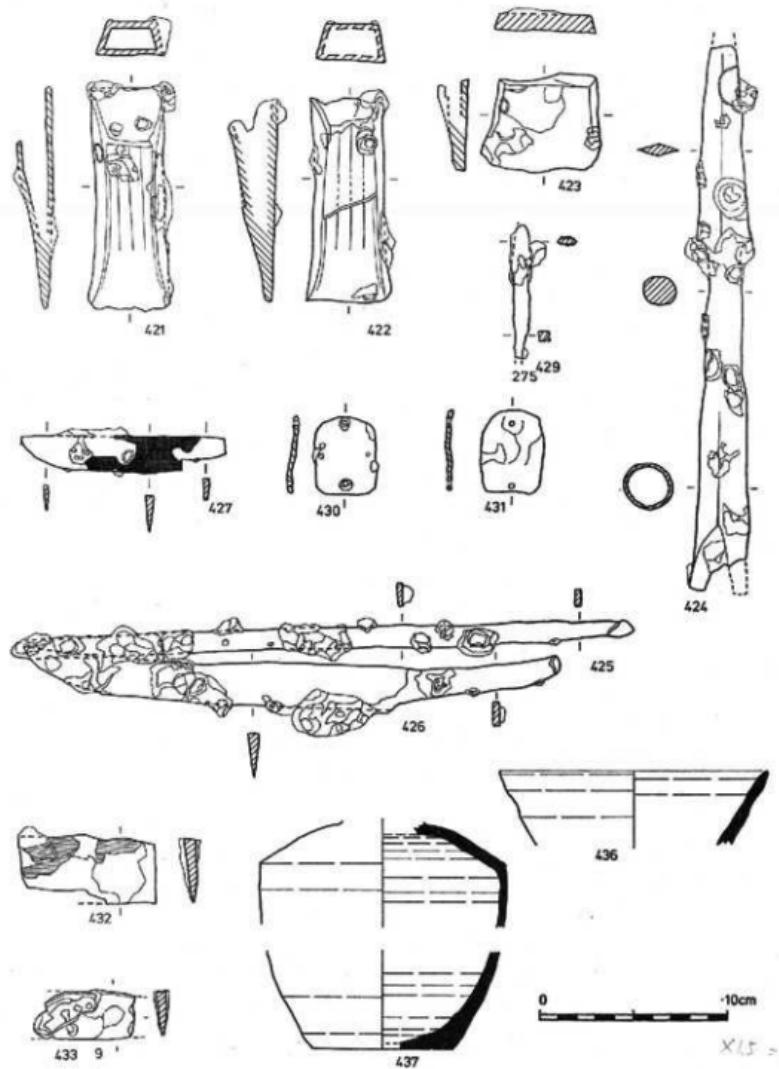
半壊品と考えられるもので刃先の部分が長さ5.2cmを測り、刃先の部分が末広がりを呈する。幅は上端で5.5cm、刃先は両端が欠けており現状で5.5cm、復元すれば7cm前後であろう。縦断面は三角形、横断面は扁平に近い梯形を呈する。

5. 鉄製鉢 424(図一8、図版一4)

鋒部をわずかに欠失しているが、ほぼ完形品である。現存長は29.2cmを測り、復元すれば30cmを少し上回る数値が得られよう。身は、鉢に近いところで1.3cm、中央部で2.3cm、袋部に近いところが最も広く3cmを測り、断面は菱形を呈する。身の基部から8mmの長さが内湾状に狭まって袋部に至る。袋部は長さ17.5cmを測り、袋部の下端は合せ目を頂点としてドーム型3cmの長さが欠切されている。なお合せ目の長さはドーム型に欠切された頂点から約6cmである。断面は略々円形で身に近いところで1.7×1.5cm、下端に近いところで2.6cm、鉄板の厚さは3mmである。

6. 鉈 425(図一8、図版一5)

全長33.2cmを測り、ほぼ真すぐである。刃先部は、鍛によって小刀と接合している



图一八 出土造物 2.

ため明らかにできないが、内湾するそりが認められる。幅は、1cm程度であろう。

柄部は、幅 1.2cm、厚さ 3mmを測り、断面は長方形を呈する。なお側面からみれば刃先は上反りの状態であることがうかがわれる。

7. 小 刀 426 (図一8、図版一5)

鉋と並んで出土したもので全長 28.5cmを測る。刃部の長さ約 19cm、幅は、中央部で 2.3cm、厚さは背の部分で 6mmで断面三角形を呈する。

柄部は長さ 9.5cm、幅は中央部で 1.3cm、厚さ 4mmで断面長方形を呈する。また全体的に反りが認められる。

8. 刀 子 427 ((図一8、図版一4))

全長 10.8cmで切先を少し欠くがほぼ完形品である。刃部の長さ 8.5cm、幅は中央部で 1.9cm、厚さ背の部分で 4mmで断面三角形を呈する。

柄部は、長さ 2.3cm、幅 1.2cm、厚さは 3mmで断面三角形を呈する。

なお表面には布目跡を多く残しており、埋納される際に布に包まれたものと考えられる。

9. 鉄 錐 429 (図一8、図版一5)

尖刀の両刃造り、柳葉形の鉄錐である。現存長 7cm、茎の長さ 4cm、幅 6mmを測り断面は方形である。

10. 帯金具 430、431 (図一8、図版一5)

430は、 $4.2 \times 3.2\text{ cm}$ 、431は $44 \times 3.3\text{ cm}$ 規模を測り、ほぼ方形を呈するものでその短辺側の一端は丸味を持っている。長辺中心軸の両端には穴が認められるが、430は鍛によって穴はふさがれており表面は鍛のためふくらんだ状態が認められる。431の穴は両方共貫通しており穴径 2~2.5mmを測る。鉄板の厚さは 2~2.5mmである。

11. 直 刀 433、434、435、436 (図一8、図版一5)

279を含め、すべて芋穴の堆積土の中より発見されたものである。幅 3.4cm、背の部の厚さ 6mm、断面三角形を呈する。また木質部を残している。これらの破片はその出土状態からして第1埋葬遺構に埋納されていたものと思われる。なおこれらの破片の状態から直刀は1本ではなく、2本の可能性もある。

12. 須 恵 器

坏 436

口径14.3cmを測り、体部にはノタ目が顯著に認められる。底部を欠くが高台の付かない丸味を持った作りと思われる。胎土は小砂粒を含み、灰色を呈する。

長 頸 増 437

頸部を欠失している。胴部最大径13.2cm、現存器高12.1cmを測る。肩部はするどい稜を持っている。体部は上半分がナデ、下半分は笠によって整形している。底部は糸切りによる平底である。胎土は小砂粒を含み灰褐色を呈し、肩部には自然釉が付着している。

坏によってその時期を推察してみると伊場遺跡大溝内第3群土器にその類例を見い出すことができる。また遠江地方古窯跡出土須恵器の編年による第Ⅶ期にも相当することから7世紀後半から8世紀前半にその年代を求めることができよう。

7. ま と め

以上が磐田67号墳に関する調査結果である。ここでは、いまいちどそれらを要約することとまとめてみたい。

磐田67号墳は、天竜川を望む磐田原台地の西縁、磐田市寺谷原地内に所在する。この寺谷原には、松林山古墳と共に磐田原古墳群の中心をなす銚子塚古墳があり、約70基によって寺谷、勾坂支群を形成している。寺谷、勾坂支群には、前述した銚子塚古墳（前Ⅲ期の前方後円墳）をはじめとして小銚子塚古墳（前Ⅲ期の前方後方墳）、米塚<50分>古墳（前Ⅳ期の円墳）、磐田69号墳（前Ⅳ期の前方後円墳）、磐田71号墳（前Ⅳ期の円墳）、大塚<100号>古墳（前Ⅳ期の円墳）等、30mを越える古式の古墳が存在する。これらの古式の古墳はいずれも台地の縁辺に存在し、内地には一基もみられないという特徴がある。

また、古墳時代後期には横穴式石室の採用が一般化しているにもかかわらず、磐田51号墳（圓場9号墳）のように木棺直葬という旧来の葬制が採り入れられ、いわば葬制の保守化といった現象がみられる。このような環境の中にある磐田67号墳は、基底径17.6mの規模を有する円墳で、約500基におよぶ磐田原古墳群の中では中位以下の墳丘規模で特別に目立った存在ではない。

主体部（棺体を埋納した掘り方）は、南北に長い、長辺7.0m、短辺2.8mの方形を呈し、長辺の長さが基底径の約 $\frac{1}{2.5}$ を計る大きなものであった。この主体部の主軸に並行しての埋葬遺構がある。埋葬遺構は東側の第1埋葬遺構が長さ4.65m、幅0.71～0.63m、第2埋葬遺構は長さ4.3m、幅0.56～0.52mの規模で第1埋葬遺構の方がわずかに大きい。

2つの埋葬遺構は、主体部の主軸とほぼ同数値であること、埋葬遺構の一端（南端）を揃えていること、埋葬遺構の底がほぼ同一レベルであること、主体部の幅に対しても同じような間隔で埋葬されていること、2つの埋葬遺構を横断する断面には2次堆積が認められないこと等から同時に埋葬されたものと思われる。

副葬品は、第1埋葬遺構と第2埋葬遺構ではその内容に大きな差がみられる。まず第1埋葬遺構では、管玉、ガラス玉、臼玉、空玉等の装身具に加えて、小形仿製鏡、

更には鉄鎌、刀子、直刀、鋳造鉄斧が出土している。これに対して第2埋葬遺構では、鉈、小刀、鉄鎌、帶金具で第1埋葬遺構との最も大きな相違点は、ガラス玉等の装身具類が全くないことである。

これらの副葬品の中で特異なものとして鋳造鉄斧が注目される。これは別称唐鏡先とも呼ばれるもので新羅の古墳に出土例が多く、一説によれば朝鮮からの輸入品ではないかとも言われているものである。

日本における鋳造鉄斧の出土例は全国的にみても非常に珍しく、福岡県沖の島遺跡（第7、8号）、同県飯塚市山の神古墳、長野県上高井郡豊島村古里古墳、岡山県岡山市金藏山古墳、同県專利郷古墳、香川県岡田村出土、三重県わき塚1号墳と、すべて西日本で散見されるものであり、本墳のものは現在までに知り得る東限のものである。

本墳出土の鋳造鉄斧（421、422）は、金藏山古墳、わき塚1号墳出土のそれに比較した時、その規模においては最も小さなものであることが言える。（金藏山古墳出土のものは上縁が叩き割られており、完形品を推定すれば本墳出土の鋳造鉄斧以上の数値を与えることができよう。）形態的には、金藏山古墳出土の刃先のひらいた1、4、5に近い形状である。

ガラス玉は、合計383個出土しているが、調査経過の中で述べたように、非常に小さなことで調査中の見すとし、更には第2グループと呼んだ第1埋葬遺構南側部分が後世の掘り込みによって切断されており、切断された部分にもその拵がりを想定することができることから埋納されたガラス玉は、かなりの数にのぼるものと思われる。

小型仿製鏡は直径4.7cmと極めて小さなもので、その鋳造技術の粗悪なことや文様が簡略化されていることが指摘できるが、これは本来、鏡の持つ意義が失われつつあり、形式だけの残存現象と考えられる。しかし鏡をガラス玉、白玉、空玉、刀子等と共に布に包んで埋葬した事実は、被葬者の性格の一端をうかがい知ることができよう。

これらの副葬品の中でその年代を限定できるものとして鋳造鉄斧がある。この鋳造鉄斧出土は5世紀前半に限定されており、磐田67号墳もこれにならえば5世紀前半とすることができる。この時期は、小銚子塚古墳が築かれた時期でもあり、先行して築かれた銚子塚古墳をも含めたこれらの関係を注目しなければならないだろう。

いずれにしても極めて珍しい鋳造鉄斧を所有していた磐田67号墳の被葬者は、この

地方においてかなりの勢力を持っていたものと考えられる。

磐田原古墳群における古墳調査の報告例は比較的少なく、古式古墳について言えば、松林山古墳、新貝12、13号墳の例が知られているのみで台地北側においては全くない。従って磐田67号墳の築造年代は、鋳造鉄斧によって5世紀前半としたが、今後周辺の報告例が増えるに従い磐田67号墳の年代の変更もあり得ることをことわっておきたい。

いずれにしても磐田67号墳は、寺谷、匂坂地区におけるこの規模の性格の一端を明らかにしたものと言えよう。

最後に本書を書くにあたって東京女子大講師・甘粕健氏、静岡県教育委員会・山下晃氏をはじめ遠江考古学研究会・芝田文雄、山村宏、尾藤暁、大崎辰夫、宮本豊彦、柴田稔、川井正一の諸兄から有形無形の援助を受けた。また磐田市教育委員会の平野和男氏、肯木克己氏にも種々お手数をかけたことを記して謝する次第です。

参 考 文 献

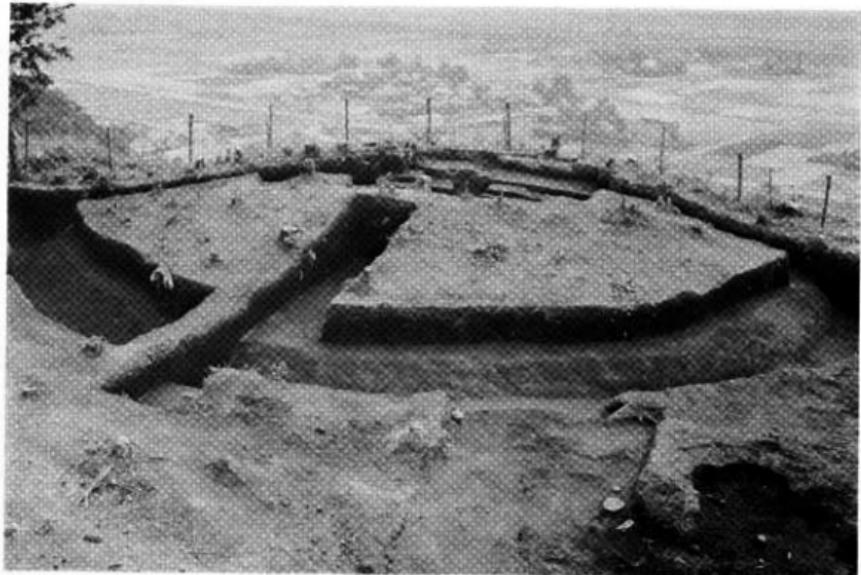
- 近藤義郎・藤沢長治「日本の考古学Ⅳ、古墳時代上」 河出書房
大場磐雄・内藤政恒・八幡一郎「新版考古学講座5、原始文化下」 雄山閣
平野和男「磐田の古代文化」 磐田市誌編纂委員会
平野和男「静岡県文化財調査報告書第6集、東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財調査報告書11・新貝12・13・14号墳」1965
磐田市教育委員会「磐田原古墳整備事業に伴う埋蔵文化財調査 寺谷9・37・38号墳調査概報」1969
古墳時代研究会「古墳時代研究I一千葉県市原市小田部古墳の調査」1972
西谷眞治・鎌木義昌「岡山市沢田 金蔵山古墳」
森浩一他「古代学研究66 三重県わき塚古墳の調査」1973
山村宏他「遠江考古学研究会学報第3集、大沢川尻古窯跡調査報告書」1966
伊場遺跡調査団「伊場第4次調査月報5」1971



1. 磐田 67 号 墓 遠 景 (西側台地下より)



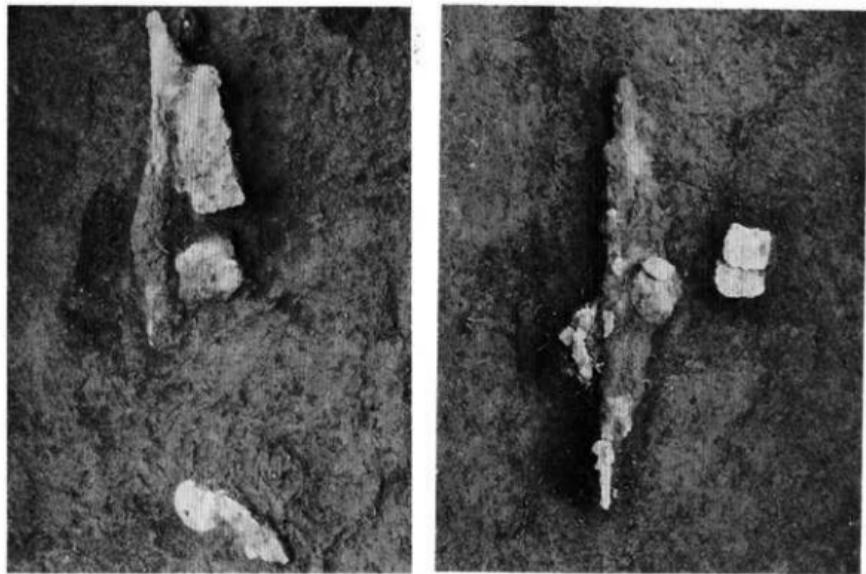
2. 磐田 67 号 墓 近 景 (北側より)



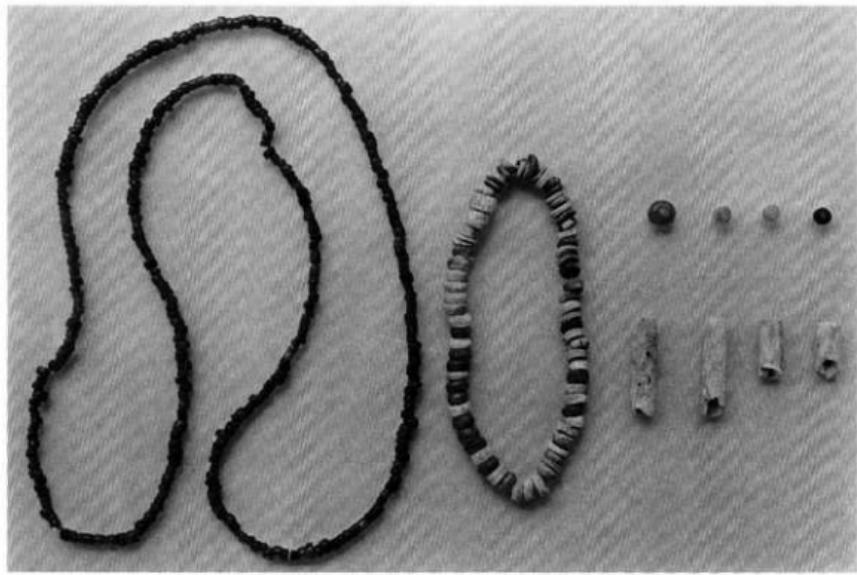
1. 駿田 67号 墓調査状況(東側より)



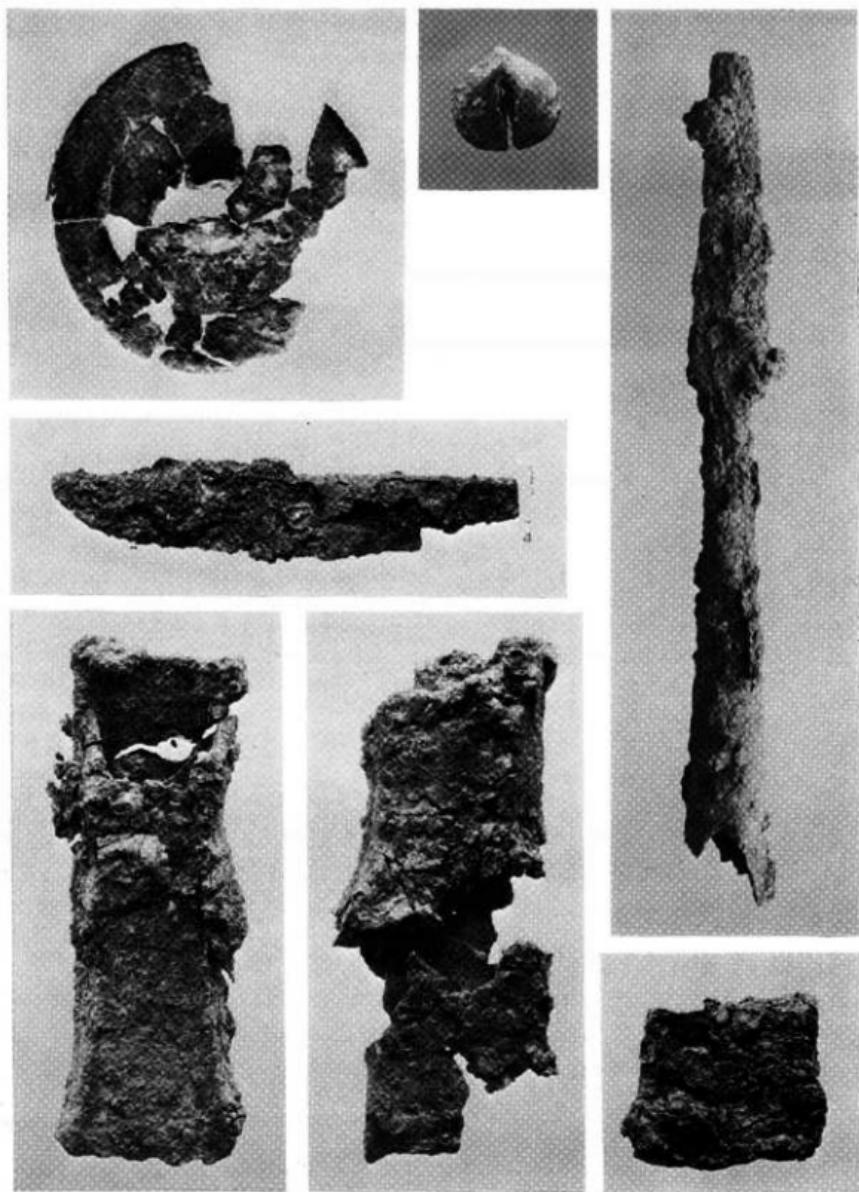
11' 州社編《駿頃(駿河)》



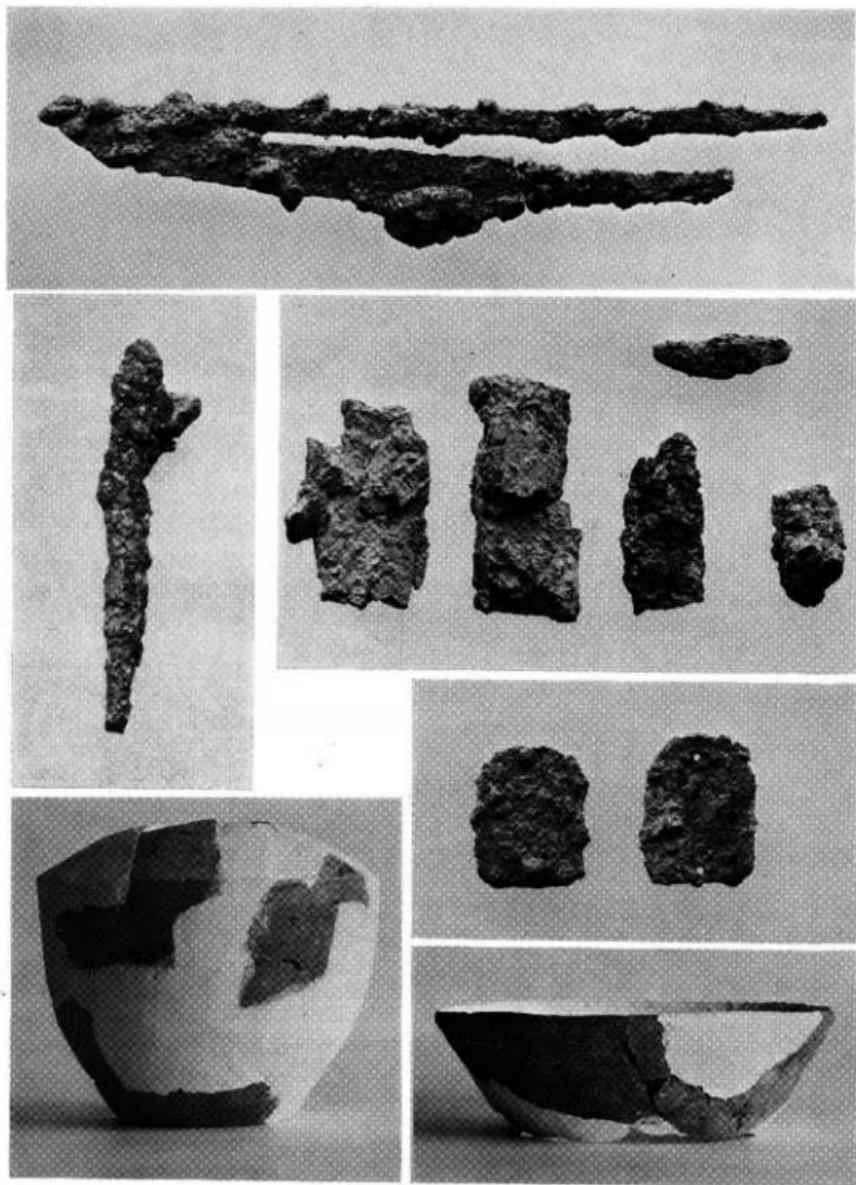
1. 遺物出土状態(上・第一埋葬遺構・下・第二埋葬遺構)



3. 出土遺物 1. (玉類)



出土遺物 2. (小形仿製鏡・空玉・鋸造鉄斧・鉢・刀子)



出土造物 3. (鉢・小刀・鉄鍊・小札・直刀片・須恵器)

昭和52年3月30日発行

磐田67号墳調査報告書

編集 磐田市立郷土館
発行 磐田市教育委員会
印刷 株式会社 山田印刷所

